

研究ノート

コンセンサス法の意義と課題

高 賢 一

はじめに

- I. 授業実践の内容
- II. 授業実践をふりかえって
- III. コンセンサス法の意義と課題

はじめに

学級活動やホームルーム活動、あるいは特別活動などにおいて、子どもたちが話し合いながら何かを決定・実行するプロセスのなかでは、多数決法が採択されることが少なくない。限られた時間のなかで、クラス全体で何かを決定・実行する場合は無理もないと思われるが、この方法は一人ひとりの意見表明や意見交換が十分にできて合意に至るわけではない。

本稿は、学校の教育活動、とりわけ学級活動や特別活動などにおいて、人間関係づくりの視点から、子どもたち同士が十分な意見交換をはかりながら小グループで合意をはかるコンセンサス法を効果的に取り入れることができないか模索するものである。そこで、筆者が非常勤講師を勤めるI看護専門学校の授業（人間関係論）、筆者が勤務するK大学経済学部2部の授業（対人関係論）において、価値観をめぐる問題を扱った領域でコンセンサス法を取り入れ、多数決法の結果と対比しながらその意義と課題を検討した。

一般的に価値観が問われるのは、「何が大切か」ということが順位に出るときである。たとえば、愛情と健康のどちらが大切か、あえてどちらを先に順位をつけるかというとき、これには正解はない。私たちは、生きていく過程でどちらかを選ばなければならないとき

たか・けんいち 金沢星稜大学

キーワード 価値観、意見表明、意見交換、教育活動、人間関係づくり

が少なくない。日常生活も含めて価値観をめぐる課題を扱った題材は豊富にあるが、授業では「クルーザー」（テキスト資料の一部）というエクササイズに取り組み、学生の反応を調査し、その効用性を検討した。

I. 授業実践の内容

I 専門学校の授業⁽¹⁾もK大学2部の授業⁽²⁾も同一テキストを使用しているため、どちらの学生に対してもグループ学習を取り入れ、同様な方法でコンセンサス法と多数決法でグループとしての順位を決定し、学生の反応を検討した。まず、「クルーザー」のエクササイズ内容は以下のとおりである。

クルーザー（物語）

突然の暴風雨にみまわれたクルーザー（大型ヨット）が2艇、無人島に避難しました。1艇には若い女性とそのフィアンセ（婚約者）、もう1艇にはヨットマンと老人が乗っていました。日が暮れて暴風雨がおさまった頃、フィアンセが暑熱にうなされ、意識不明に陥ってしまいました。若い女性は、汗をふいたり水を口に含ませたりするなど、いろいろと手を尽くしてみましたが、容態は全く良くなりません。

夜はどんどん深まっていきます。クルーザーの操縦ができない彼女は、何とか彼を助けたい一心で、ヨットマンに医者のある島まですぐに連れていってくれるように頼みました。するとヨットマンは、「この島から医者のある島までは、どうみても5時間はかかる。それに、夜の航海は危険で、命がけになる」としばらく考えていましたが、「今、あなたを抱かせてくれたらクルーザーを出しましょう」と言いました。

思いもよらない言葉に困り果てた彼女は、老人に「どうしたらいいでしょうか?」と相談したところ、「今のあなたにとって何がよいのか、何が悪いのかは私には言うことができません。自分の心に問いかけて、自分で決めるのがいいでしょう」と言うのみでした。彼女は、苦しんだ末にヨットマンの言う通りにしました。夜明けにヨットマンの操縦するクルーザーは、無事医者のある島に着き、フィアンセは医者の手当てを受けることができました。

3日3晩、医者の懸命な看護により、フィアンセは目を覚ましました。若い女性はフィアンセを抱きしめながら、事の成り行きを話そうかどうか大いに迷いましたが、正直にすべてを打ち明けました。それを聞いたフィアンセは怒り狂い、彼女に「何ていうことをするんだ! 絶交だ!!」と言い、彼女を部屋から追い出しました。

あまりのことに呆然とし、浜辺に座って波の行方をみつめていると、医者がやってきて「どうしたの?」と聞きました。彼女が事情を話すと、「僕には君の気持ち痛いほどわかるよ。彼には君のことをよく話してみよう。きっと彼も病気が治れば理解してくれると思う。それまでしばらくの間、私があなたの世話をしあげよう」と言いながら、彼女の肩に手をかけました。

研究ノート

エクササイズの内容は以上のとおりであるが、このエクササイズで学ぶことは、「人それぞれものの考え方、価値観に気づきながら、お互いの理解を深めていく」と記されている。看護学校の学生は42名で、各班6人の7グループ編成、2部学生は18名で各班6人の3グループ編成とした。エクササイズの進め方としては、各班の一人ひとりが、5人の登場人物について「好き」「嫌い」で順位をつけ、コンセンサス法と多数決法の2つの方法によって各班としての順位をつけていく方法をとった。

5人のうちでこの人が一番感じがいい（好感が持てる）と思う人を1番、順に2番、3番、4番、5番とつけていくが、一番嫌な感じの人が5番ということになる。物語を読むと、「どの人もみんな嫌い」ということになるかもしれないが、「なかでも、この人が一番まし」という具合に、それでもあえて順位をつけてもらう。1人でつける場合は、誰にも相談しないことが原則である。

各班で決めた司会者は、グループの全員に各人が決めた順位と理由を発表させ、まず多数決法による順位を決定する。次に、グループとして話し合わせ、時間は30分を目安にしてコンセンサス法によりグループとしての順位を決めていく。これには正解はないので、納得できるところでグループとしての結論を出す。コンセンサス法で決めた結果と多数決で決めた結果の違いも把握させる。グループでの順位づけが終わったら、話し合っただけについてプロセスシートに記入してふり返る。次に、プロセスシートに書いたことを発表しあい、わかちあいを行う。最後に、各班の発表者が自分のグループとしての順位を理由をつけてみんなの前で発表する。なお、コンセンサス法による集団決定をする際の留意点について、以下⁽⁴⁾のように学生に伝えた。

「今の時点での決定は、あなたの個人決定です。これはあなた自身のものであり、納得できない限り変えないでください。これから、コンセンサス（全員の合意）による集団決定をしますが、一つひとつについてグループの各メンバーが合意して、初めてグループの決定となるわけです。コンセンサスは、もちろん容易ではありません。したがって、すべての決定が各人の完全な合意を得ることはできないかもしれませんが、お互いが努力しあって、できるだけ合意に近いかたちで決定してください。以下に、コンセンサスを得るための若干の留意点を確認します。

1. 十分納得できるまで話し合ってください。自分の意見を変える場合は、自分にも他のメンバーにもその理由が明らかであることが必要です。
2. 自分の判断に固執し、他に勝つための論争（あげつらい）は避けてください。
3. 決定するのに、多数決とか、平均値を出してみるとか、または取りきをするといったような「葛藤をなくす方法」は避けてください。また、結論を急ぐあまり、あるいは葛藤を避けるために安易な妥協はしないでください。

研究ノート

4. 少数意見は、集団決定の妨げとみなすより、考え方の幅を広げてくれるものとして尊重することは大切なことです。
5. 論理的に考えることは大切ですが、それぞれのメンバーの感情やグループの動きにも十分配慮してください」

Ⅱ. 授業実践をふりかえって

さて、多数決法およびコンセンサス法によって、看護学校の学生7グループおよびK大学2部の学生3グループが出した順位は、以下のとおりである。

【I看護専門学校42名】

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班
若い女性	1 2	1 3	2 1	2 1	1 2	1 2	2 4
フィアンセ	3 4	4 2	4 4	3 2	4 3	4 1	3 2
ヨットマン	5 5	5 5	5 5	4 5	3 5	5 4	4 5
老人	2 1	2 1	3 2	1 3	2 1	2 3	1 1
医者	4 3	3 4	3 3	5 4	5 4	3 5	5 3

【K大学2部18名】

1班	2班	3班
3 4	3 1	1 2
4 3	4 3	3 4
5 5	5 4	4 5
1 2	1 2	2 1
2 1	2 5	5 3

注：右表はコンセンサス法による順位、左表は多数決法による順位

まず気がつくのは、多数決法によるグループ順位とコンセンサス法によるグループ順位には微妙な違いがみられることである。看護学校学生の3分の2が女性、残り3分の1が男性である。これに対して、2部学生は3分の2が男性、残り3分の1が女性である。

男性と女性では、若い女性とフィアンセに対する好感度が少し異なることが明らかになった。つまり、男性の多いグループではフィアンセに、女性の多いグループでは若い女性に好感度が高かった。プロセスシートの質問に対する応答に基づいて、学生の反応を調べた。

1. この実習で、あなたは自分の意見をどの程度主張できましたか？ 多数決法とコンセンサス法に分けて教えてください。

	I看護学校(42名)		K大学2部(18名)		全体(60名)	
全く主張できなかった	8	0	3	0	11	0
あまり主張できなかった	33	3	4	1	47	4
どちらでもない	1	4	1	2	2	6
かなり主張できた	0	25	0	9	0	34
十分主張できた	0	10	0	6	0	16

注：右表はコンセンサス法、左表は多数決法による順位

研究ノート

全体を通して見ると、コンセンサス法では、全く主張できなかった学生は皆無、あまり主張できなかった学生は1名、かなり主張できた学生は約57%、十分主張できた学生は約27%、④と⑤を合わせると約83%に達する。このように、多数決法の結果とコンセンサス法の結果では歴然とした違いがみられる。多数決法では、全体の約92%の学生が「全く」あるいは「あまり」主張できなかったということになる。

2. メンバーはお互いの理由や意見を聴きあえていましたか？

	看護学校(42名)		K大学2部(18名)		全 体(60名)	
①全くできていなかった	7	0	4	0	11	0
②あまりできていなかった	34	0	13	0	47	0
③どちらでもない	1	3	1	1	2	4
④かなりできていた	0	28	0	10	0	38
⑤十分できていた	0	11	0	7	0	18

注 右枠はコンセンサス法、左枠は多数決法の場合

全体を通して見ると、多数決法では「全く」あるいは「あまり」聴きあえていなかったと答えた学生は、全体の約97%にも達する。逆に、コンセンサス法では全体の93%に達する学生が「かなり」あるいは「十分」聴き合えたということになることがわかる。このように、お互いの意見などを聴きあう点においても多数決法とコンセンサス法の違いが歴然としている。

3. コンセンサスはどの程度できたと思いますか？

	I看護学校(42名)		K大学2部(18名)		全 体(60名)	
①全くできなかった	8	0	3	0	11	0
②あまりできていなかった	33	0	14	0	47	0
③どちらでもない	1	2	1	1	0	3
④かなりできていた	0	22	0	6	0	28
⑤十分できていた	0	18	0	11	0	29

注 右枠はコンセンサス法、左枠は多数決法の場合

「かなり」および「十分」できていたと思う学生は、実に全体の95%にも達することから、コンセンサス法による順位づけが全員の合意で決められていることが推察できよう。逆に、多数決法による順位づけでは、ほとんど合意できていないことが明らかである。

4. コンセンサスによる集団決定をしてみて(多数決と比較して)、どのように感じましたか？(抜粋)

《肯定的なコメント》

- 多数決だと早く結果が出るが、少人数の意見は全く反映されない。だけど、コンセンサス法は、みんなで話し合って結果を出すから、そのなかでもお互いの考えが変わったりもするし、いろんな考え方を知ることができる。
- いろんな意見が聞けてよかったが、そうした意見が聞けるからこそ、当然のことながら順位とか決めるのは時間がかかった。
- 数で決める（判断する）のではなく、メンバーの意見や理由をじっくり聴いてから決められるからお互いに納得できるものがある。
- 人の考えは十人十色だということを改めて実感した。
- 話し合いによって決めるのは、お互いの意志疎通ができていないと難しいが、少数意見でも大切にされるところがすばらしい。
- 多数決ではなかなか自分の意見が採用されにくい。コンセンサス法では自分の意見を取り入れてもらうことができた。
- 話し合いのなかで、新たな意見や考えが出てくることによって、全員が納得できる答えを導くことができる。
- 自分とは異なる意見でも、しっかりとした理由があると、自分の考えよりその人の意見が正しいのではないかと思うことがあった。
- 多数決とは違って、みんなで話し合って答えを出したので、お互いに納得のいく答えが出てよかったと思います。
- 同じ順位でもいろいろな考えがあり、考え方が深まりました。
- 他人の意見に納得できるものがたくさんあり、自分の意見も変わっていった。
- どうしてそのような順位になったのか、その理由を述べることが重要だとわかった。
- たとえ少数意見であっても、グループとしての順位が変わることもあるのだということを思い知らされた。
- 自分の意見だけでなく、他人の意見もしっかり聴くことができてよかった。
- 多数決法よりもコンセンサス法の方が時間はかかるが、お互いに十分話し合って納得できる順位ができるという点ですばらしいと思った。
- これまでこのようなことはほとんどやったことがなかったので、とても新鮮に感じた。
- 自分の班はある程度意見がまとまっていたが、他の班の結果を見ると意外と順位が違ったので驚きました。
- こんなにも価値観が違うんだということがわかった。
- みんなの意見を聴いているうちに、考えが変わっていくので不思議な感じがした。
- 他人の順位の理由を聞いて、自分とは全く異なる理由が出てきたので驚いた。
- 人によって感じ方や考え方が違うので、グループとしてしっかりと理由づけをして決めることができた。
- 他人の意見を十分聞いてグループとしての意見を決めていくので、多数決よりも時間がかかるけれど、お互いに納得することができた。

研究ノート

- ・司会者がすばらしかったので、とてもいい雰囲気で話し合うことができた。
- ・多数決はすぐに決まってしまうが、班の本当の意見を反映しているとは思えない。コンセンサス法のように、班の人たちと真剣に話し合っただけの答えが、やはりその班の答えであると思う。
- ・いろんな意見を聞くことができたので、自分の考えの幅が広がったように思う。
- ・多数決法だと、自分があまり納得していなくても多数派に従わなければならないが、コンセンサス法の場合は、たとえ1人だけの意見でも尊重されるので充実感がある。

《否定的なコメント》

- ・自分と違う意見の人を説得するのは難しい。
- ・完全に意見が分かれたときに、まとめるのにとても時間がかかる。
- ・多数決法だとすぐに決めることができるが、コンセンサス法だとじっくりと他人の話を聞いて総合的に決めなければならないので大変だった。
- ・何となく自分を意見言うのがつらかった。
- ・多数決法よりも納得できる点もあるが、時間がかかりすぎて説得することが難しい。
- ・一人ひとりの意見が全部違って、それを1つにまとめるのは大変だった。

多くのコメントからは、多数決法に比べると時間はかかるが、一人ひとりの意見が十分尊重され、納得のいく合意が得られるコンセンサス法のメリットが十分伝わってくる。しかし、一人ひとりの意見が違って、それを1つにまとめるのは決して容易なことではないようである。司会者の力量によっても、コンセンサス法によるメリットが大きく左右されるようである。このエクササイズで学ぶ目的は、「人それぞれのものの考え方や価値観に気づきながら、お互いの理解を深める」であったが、多くの肯定的なコメントからその目的が十分達成されたと思われる。

5. この実習のなかで、あなた自身の態度や行動などについて感じたことはどんなことですか？

(抜粋)

- ・あまり自分の意見を言えなかったけど、他の人の話はちゃんと聞くことができた。
- ・周りの意見はしっかりと受け止めることができたが、自分の意見をもう少し発言できたらよかったと思いました。
- ・自分のなかでは順位と理由が明確であったが、実際に自分の主張を言い切るのは難しいと感じた。
- ・1つのことでも、いろんな角度から見たり考えたりすることが大切だと思った。
- ・ちゃんと円滑に話し合いを進めようとしたけど、もう少し柔らかい言い方ができるとよかった。
- ・相手の意見を全否定しないように、自分の意見を考えるのが意外と難しかった。

研究ノート

- ・自分の意見を主張しながらも、他の人の意見も聞くことができるんだと感じた。
- ・人の話を深く聞くことが大切だと思いました。
- ・一人ひとりの意見をしっかりと聞くことができたし、あいづちをうちながら納得できた。
- ・自分の意見を言うことができましたが、もう少し感情的に発言すればよかったと思う。
- ・人の気持ちを考えながら話したりすることで、人を説得することができると思い、これから活かしていきたいと思います。
- ・違う意見を言う人に対して熱く燃えてしまった。
- ・もっと自己主張して、相手を納得させる意見を言えるようにしたい。
- ・自分の意見がとても言いやすい。楽しいけど、まじめに話し合える。
- ・ちょっとしゃべり過ぎたかなと思います。他の人たちにもしゃべらせたほうがいいと思いました。
- ・他人の意見を聞くと、すぐに自分の意見を変えてしまう気がするので、もう少し自分の意見を大切にしていきたい。

今回のエクササイズでは、自分の意見を十分主張できたような印象が強かったが、なかには周りの意見を尊重するあまり、もう少し自己主張できたらよかったと思う学生もいたようである。その一方で、違う意見の人に対して熱く燃えてしまった学生、もっと柔らかに主張できればよかったという学生など、自分を前面に出し過ぎたと反省している学生もみられる。全体的には、自己主張しながら周りの意見も聴き入れることができたという学生が多かったように思われる。

Ⅲ. コンセンサス法の意義と課題

価値観の違いをどのように扱ったらいいのかということであるが、自分の意見をはっきり言って、それを聴いてもらうこと、つまりお互いに聴き合うことが大切である。意見は違っても、お互いに理解し合えたことが大切であり、これができるということは「コミュニケーションが成立した」と言えるのではないだろうか。私たちは、ふだんの生活のなかで、何かについて良いとか悪いとか言ったり、そのことで議論してしまうことがあるが、その根底にあるのが価値観である。価値観はすぐには見えてこないが、じっくり話し合っているとお互いの考え方の違いが明らかになってくる。

今回のエクササイズは、まさにこの価値観に関わるものであったが、エクササイズにコンセンサス法を取り入れることによって、自分の意見をはっきりと主張する一方で、他人の意見をしっかりと聴いて、お互いに理解し合えたという点で、とても有意義な体験になったことは学生の反応からも明らかである。価値観は、その人が新しい経験を重ねるなかで

研究ノート

変わっていくものであると思われる。コンセンサス法では、なぜそのように考えるのかということ率直に包み隠さず話し、それに耳を傾けて聴く、つまり傾聴し合うことを大切にするため、お互いの考えがよく理解できるようになる。お互いに理解できたことをどのように合意という形にもっていくのか、これが大きな課題ではあるが、納得できないまま数の論理で決定するよりははるかにコンセンサスがとれるものである。

学生の指摘にもあったように、意見が真っ二つに分かれた場合などは合意に達することがとても難しいものと思われる。しかし、相手の考えを理解するということは、相手と自分の考えを一致させるということではない。たとえ一致しなくても、相手の考えを受け入れることは可能である。これが理解できるようになれば、大きな葛藤は回避できるものと思われる。

コンセンサス法の課題を敢えて挙げるとするならば、急いで意思決定しなければならないときに時間がかかることであろう。どんなときにコンセンサス法を使うかであるが、ある程度の時間を確保できる場合は使うことの意義は大きいといえよう。しかし、早急な意思決定が求められる場合は、十分時間をかけて話しあい、合意を得るコンセンサス法は不都合であろう。

今回、2つの授業実践を通してコンセンサス法の意義を十分確認することができたが、さらに別の学生に対しても実施してみたいと考えている。今回のようなグループワークでは、コンセンサス法の意義はもちろんのこと、学生同士の人間関係づくりという点でも大きな成果が得られた。一方、小・中・高校などの学校現場に目を向けてみると、子どもたち同士の人間関係づくりが叫ばれているなかで、こうしたグループワークを学級活動や特別活動などの教育活動に活用できると思われる。どのような形で取り入れていくのが効果的なのか、今後も研究実践活動を継続していきたいが、人間関係づくりの重要な方略の1つとしてコンセンサス法を実践してみる価値は十分あるものと思われる。

【註】

- (1) 「人間関係論」の授業（後期2単位）で、人間の価値観が問われるエクササイズを実践してみることにした。使用テキストは、「人間関係づくりトレーニング」（星野欣生著、金子書房、2003年初版）である。学生は42名。
- (2) 「対人関係論」の授業（後期2単位）で、看護学校と同じテキスト（「人間関係づくりトレーニング」金子書房、星野欣生著、2003年初版）を使用した。学生は18名。
- (3) 星野欣生著「人間関係づくりトレーニング」金子書房、2003年初版、p.107。